

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
IGL医療福祉専門学校	平成13年3月30日	野村 敏之	〒731-3164 広島市安佐南区伴東一丁目12番18号 (電話) 082-849-5001				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人IGL学園	昭和49年3月27日	永見 憲吾	〒731-0154 広島市安佐南区上安六丁目31番1号口 (電話) 082-830-3399				
目的	柔道整復師に関する専門知識・技能を習得させ、企業等の要望を十分に理解し、実践的な職業教育を目指し指導する。						
分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
医療	医療専門課程	柔整学科	平成16年文部科学省告示第17号	無			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2421	1312	158	951	0	0
単位時間							
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
90人	69人	6人	15人	21人			
学期制度	■1学期:4月1日～9月30日 ■2学期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 定期試験の成績で評価。100点満点で評価し、60点以上をもって単位が認定される。優(80点以上)良(70点以上～80点未満)可(60点以上～70点未満)不可(60点未満)			
長期休み	■学年始:4月1日～4月5日 ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月24日～翌年1月6日 ■春季:3月21日～4月7日 ■学年末:3月31日		卒業・進級条件	進級要件 当該年次において開設している全科目についての単位が認定され、かつ学納金が納入期日までに納入されていること 卒業要件 卒業に必要な全科目の単位を修得し、かつ学納金が納入期日までに納入されていること			
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 長期欠席となる前に事情の聴取、確認の面談を行い、早期出席を促す。		課外活動	■課外活動の種類 サッカー大会救護 マラソン大会救護 トライアスロン大会救護 ■サークル活動: 有			
就職等の状況	■主な就職先、業界等 接骨院・鍼灸接骨院・病院・福祉施設 ■就職率 ^{※1} : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 63.6% ■その他 (平成26年度卒業者に関する平成27年5月1日時点の情報)		主な資格・検定等	柔道整復師国家試験受験資格 専門士			

中途退学の現状	■中途退学者 8名 平成27年4月1日 在学者 73名 (平成27年4月1日 入学者を含む) 平成28年3月31日 在学者 65名 (平成28年3月31日 卒業者を含む)	■中退率 10.9%
	■中途退学の主な理由 成績不振、進路変更	
	■中退防止のための取組 成績不振の学生に補講を実施した。学生の精神面へのサポートは教員間での意見交換の回数を増やし細やかな対応を行った。	
ホームページ	http://www.igl.ac.jp/	

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。

②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。

③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

(「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。)

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

特化した分野で柔道整復術を行っている企業・団体等と連携し、教育課程を編成する上で意見を十分に活用し専門的な職業教育を実施することを基本方針とする。授業内容の改善や見直しを行うことで最新の情報を学生に教授できるようにする。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成29年3月1日現在

名前	所属
加藤 弘幸	公益社団法人広島県柔道整復師会 総務部長
西田 和明	医療法人齊和會 広島クリニック 経理部長
藤井 紀子	公益社団法人広島市老人福祉施設連盟 会長
松林 克典	社会福祉法人正仁会 特別養護老人ホームなごみの郷 施設長
丸木 直也	公益社団法人広島県鍼灸師会 副会長
岡峰 勝広	株式会社さくらモンデックス安佐南院 院長
浮田 瑞穂	一般社団法人広島県歯科衛生士会 副会長
上間 京子	Jokanスクール 校長
野村 敏之	IGL医療福祉専門学校 校長
賀川 一樹	IGL医療福祉専門学校 教務部長兼柔整学科学科長
尾野 龍一	IGL医療福祉専門学校 教務副部長
森 美香	IGL医療福祉専門学校 介護福祉学科 学科長
南 一成	IGL医療福祉専門学校 鍼灸学科 学科長
今井 康夫	IGL医療福祉専門学校 口腔保健学科 学科長

(開催日時)

第1回 平成28年6月26日(日) 11:00~12:00

第2回 平成28年9月11日(日) 16:30~17:30

教育課程編成委員小委員会 平成28年7月24日(日) 1500~1600

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

特化した分野で施術を行っている企業・団体と連携し、授業内容の改善や見直しを行うことで、最新の情報を学生に教授出来るようにする

科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習	臨床の現場において、患者さんに対する治療の見学及び柔道整復術を通じて、授業で習得した知識や技術を広く応用させ、医療機関で患者に触れることができ、施術者の基礎を作る。	医療法人齊和會 広島クリニック

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

教員は柔道整復師の実務に関する研修と、柔道整復師の養成学校の教員としての自己の知識及び技術を向上させるために研修に参加し、日々研鑽するとともに原則として年1回以上の研修会に参加する。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年3月1日現在

名 前	所 属
西田 和明	医療法人齊和會 廣島クリニック 経理部長
松林 克典	社会福祉法人正仁会 特別養護老人ホームなごみの郷 施設長
岡峰 勝広	株式会社さくらモンデックス安佐南院 院長
上間 京子	Jokanスクール 校長
中玉 基	学校法人広陵学園 広陵高等学校 校長
山根 弘	IGL医療福祉専門学校同窓会 会長

(学校関係者評価結果の公表方法)

インターネット(学校ホームページ)

[URL:http://www.igl.ac.jp/](http://www.igl.ac.jp/)

5. 情報提供

(情報提供の方法)

インターネット(学校ホームページ)

[URL:http://www.igl.ac.jp/](http://www.igl.ac.jp/)

(別紙様式2)

授業科目等の概要

(医療専門課程柔整学科) 平成28年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			人間学	テキスト「幸せレッスン」の内容に従い、人生の発達段階に応じた生活課題を克服する手がかりを見つける。	1後	34	2	○			○			○		
○			生物学	生理学、解剖学などの専門基礎分野の科目の基礎となるような生物学の基礎知識の習得を目標とする。	1前	34	2	○			○				○	
○			英語	医療にかかわる英語表現を習得する。	1前	34	2	○			○				○	
○			臨床心理学	人間を全体的存在として理解するために必要な基本的な心理学を学ぶ	1前	34	2	○			○				○	
○			栄養学	栄養に関する化学、生理学、栄養と疾病とのかかわりを学び、学習者自身の日常の実践を可能たらしめるとともに、臨床現場での栄養指導も行える力をつける。	2前	34	2	○			○					○
○			情報学	ビジネスソフトウェア (Word Excel)、を使用し、文書作成やデータ管理などの情報活用技術を身につける。	2後	34	2				○	○				○
○			保健体育	柔道を通して、心身を鍛錬し健康及び体力の増進を図る。技の合理的な使い方と対人技能の基礎を学ぶ。	1通	68	2				○	○			○	
○			解剖学 I A	骨格系、筋系、神経系を中心に人体の構成について理解し、説明できるようにする。	1通	136	5	○			○					○
○			解剖学 I B	消化器、呼吸器、泌尿器、内分泌、感覚器、循環器など各臓器について理解し説明できる。	1通	60	2	○			○					○
○			解剖学 II	1年次に履修した解剖学の基礎知識を再確認し応用できるよう理解を深める。	3通	60	2	○			○					○
○			生理学 I	生体の生命維持、生殖、運動などの諸機能に	1通	136	5	○			○				○	
○			生理学 II	1年次に履修した生理学の基礎知識を再確認し応用できるよう理解を深める。	3通	60	2	○			○				○	

授業科目等の概要

(医療専門課程柔整学科) 平成28年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			運動学	運動しているとき、体に起こっている解剖学的・生理学的メカニズムを解説し、運動やスポーツに対する科学的な見方を修得する。	3通	60	2	○		△	○			○		
○			病理学概論	病気の種類、原因、成り立ち方や経過、転帰といった一連の過程について、全身の臓器や組織に通じる基本的原則を生体構造の形態的变化を中心に学習する。	2通	68	3	○			○				○	
○			一般臨床医学	疾患各論を学び、医療者としての心構え、診断にいたるアプローチ、また疾患によってはアドバイスにより適切な診療機関受診を勧める等、適切な判断能力を養う。	2通	68	3	○			○					○
○			外科学概論	外科学学習を通じて科学的知識を得た上で生命の尊さ、健康の大切さなどもあわせて学ぶ。	2通	68	3	○			○					○
○			整形外科学	整形外科疾患に対応するための筋骨格系基礎理論とともに、最近の基礎医学の分野の著しい進歩の筋骨格系への応用及び実技についても学習する。	3通	60	2	○			○					○
○			リハビリテーション医学	リハビリテーション医学の基礎となる学問体系の概説と、対象疾患の診断や治療の進め方を学び、リハビリテーション医学の医学全体における位置づけと意義を理解する。	2通	68	3	○			○					○
○			柔道Ⅰ	基礎科目の保健体育（1年次開講）に引き続いて柔道を学習し、（財）全国柔道整復学校協会主催の実技認定試験までに初段に達する技術・能力を養う。	2前	34	1			○	○				○	
○			柔道Ⅱ	2年次前期から実施されていなかった柔道の1年間のブランクを埋め、（財）柔道整復研修試験財団主催の実技認定審査に向け、3年間の学習内容を纏め技能の到達度を向上させる。	3後	30	1			○	○					○
○			関係法規	柔道整復師として必要な法律の基礎知識の定着を目指すとともに、施術するときに気をつけるべき法律問題を総合的に学習する。	3前	30	1	○			○					○
○			衛生学・公衆衛生学	衛生学の学習を通じ、健康を守ることを自分自身の問題として捉えられるようになること、またその考えを社会全体に当てはめて考えられるようになることを目指す。	2前	68	3	○			○					○
○			医学史	医療に携わるものとして、自分の仕事となる領域の歴史をある程度まとめて理解する。	2後	30	1	○			○					○
○			柔道整復基礎理論Ⅰ	2年次への基礎理論の取得と将来の柔道整復師としての資質向上を目標とし柔道整復術および柔道整復師の沿革 業務範囲とその心得および柔道整復師倫理綱領を学ぶ。	1通	68	4	○			○					○

授業科目等の概要

(医療専門課程柔整学科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			柔道整復基礎理論Ⅱ	柔道整復学の基礎知識の修得および、各論の知識の修得を目標とする。	1通	68	4	○			○	○			
○			柔道整復学演習	グループで研究対象を設定し、柔道整復学及び関連領域での研究課題について論文を作成する。	3前	30	1		○		○	○			
○			臨床柔道整復学ⅠA	日常よく見られる軟部組織損傷の各論・実技の授業を行う。また3年生での臨床実習を踏まえ、より現場で必要とされる医療面接等の診察技法を行う。	2通	68	2	△		○	○	○			
○			臨床柔道整復学ⅠB	1年次学習した柔道整復学総論を基とし、下肢の骨折について柔道整復学的、さらには整形外科的観点からの理論・実技の修得を目標とする。	2通	68	2	○		△	○	○			
○			臨床柔道整復学ⅡA	上肢骨折の知識の習得と治療技術の向上を目標とする。	3通	66	2	○		△	○	○			
○			臨床柔道整復学ⅡB	国家試験に向けて、専門基礎科目において合格ラインに達すると共に、柔道整復師として必要な基礎医学の知識を再確認する。	3通	66	2	○			○	○			
○			臨床柔道整復学演習Ⅰ	解剖学及び柔道整復学的知識を元に体表からの触診技術の獲得と向上を目指す。	3通	64	3		○	△	○	○			
○			臨床柔道整復学演習Ⅱ	国家試験合格に必要な知識取得を中心に柔道整復師として必要な知識の整理を目指す。	3通	64	3		○	△	○	○			
○			包帯固定学	固定法の基礎である包帯法を身に付ける。あわせて柔道整復師として実務に臨む基本姿勢を身に付ける。	1通	68	2				○	○	○		
○			柔道整復実技Ⅰ	人体、特に運動器の基礎解剖を理解し、医療系科目を学ぶための基礎作りを行う。	1通	68	2	△			○	○	○		
○			柔道整復実技ⅡA	1年次の学習を基盤とし、接骨院主である教員より臨床現場の視点を通じて下肢の脱臼及び軟部組織損傷の柔道整復学的、整形外科的観点からの理論・実技の修得を目標とする。	2通	68	2				○	○		○	○
○			柔道整復実技ⅡB	柔道整復学の基礎知識をもとに、上肢の脱臼と軟部組織損傷についての知識と検査法および治療技術を修得する。	2通	68	2				○	○	○		
○			柔道整復実技ⅡC	柔道整復学の基礎知識をもとに上肢の骨折(理論・実技)について理解する。	2通	68	2				○	○	○		

授業科目等の概要

(医療専門課程柔整学科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			柔道整復実技ⅢA	柔道整復師として必要な技能と知識を習得すると共に、国家試験に備えて知識の整理と習熟度の確認を行う。	3通	66	2			○	○		○		
○			柔道整復実技ⅢB	柔整理論総論の復習および国家試験に対応できるレベルの上肢の脱臼軟損分野の復習を行なう。	3通	66	2			○	○		○		
○			柔道整復治療学	教科書では学びきれない臨床現場に関連する知識を獲得するために、専任教員のほか学外の講師を招き、講義をおこなう。また臨床的知識と国家試験に必要な知識を結びつける。	3後	34	1	○	△		○		○		
○			臨床実習	校内での実習で、柔道整復師として資格取得後業務を開始する際に支障のないレベルとなることを目的とし、校外の医療機関での見学を加え、患者に触れることができる施術者の基礎を作る。	3通	45	1			○	○	○	○		○
合計					41科目		2421単位時間(92 単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
所定の修業年限以上在籍し、学則に定める授業科目を履修のうえ、全科目の単位を修得する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。